

総合計画審議会「宝の島・とくしま創造部会」 会議録

I 日時 平成 26 年 12 月 12 日（金）午後 1 時 30 分～午後 3 時

II 会場 県庁 10 階 大会議室

III 出席者

【委員】14 名中 10 名出席

近藤宏章部会長、伊藤晴夫委員、分木秀樹委員、内藤佐和子委員、
岩野倫子委員、飛田久美子委員、唐渡義伯委員、永本能子委員、
村上幸二郎委員、村崎文彦委員

【県】

政策創造部長、政策創造部副部長 ほか

IV 議題

- 1 新たな総合計画「長期ビジョン編」及び「中期プラン編」の素案について
- 2 その他

《配付資料》

- 資料 1 新たな総合計画「長期ビジョン編」及び「中期プラン編」素案の概要
資料 2 新たな総合計画「長期ビジョン編」素案
資料 3 新たな総合計画「中期プラン編」素案

V 会議録

- 1 新たな総合計画「長期ビジョン編」及び「中期プラン編」の素案について
事務局より「新たな総合計画『長期ビジョン編』及び『中期プラン編』の素案」について、資料 1 から 3 に基づき説明があった後、意見交換が行われた。

（近藤部会長）

それでは、ご説明いただいた「長期ビジョン編」と「中期プラン編」について、何かご質問等ありましたら、ご発言をいただきたいと思います。どなたからでも結構でございますので、よろしくお願いいたします。

（村崎委員）

徳島文理大学の村崎です。質問ですが、例えばこの項目に挙がっている、「すべての小中学校」や「すべての幼稚園」という記載がございますけれども、私学の立場から申しますと、これらの中に私学の園児・児童・生徒は含まれているのでしょうか。

また、ちょっと原点に戻ってしまいますが、「英語教育」という語句が何度も出てきますけれども、そこまで英語が必要と徳島県はお考えなのですか。と申しますのも、徳島に限った話ではないかもしれませんが、学校の中で英語を学ぶ一方で、英語を使うことなく

人生を終える方もたくさんいらっしゃる。もちろん県が外国人を迎え入れようという気持ちがあるのは分かるのですが、そこまで「全員に手厚い英語教育」が必要なのか、というのが率直な疑問です。

また、全体的な話で申しますと、小中学校の英語教育や、小中学校での一元的なファミリー教育による早期結婚や出生率の向上というお話が出てましたが、ちょっとほんわかとか、具体性がないような気がしました。長期ビジョン編の2ページには、2050年までに人口がどんどん減って行って、7割ぐらいで人口が半分となり、うち3割に消滅可能性があるとなりましたよね。それは県としては消滅する方向でいいとお考えなのか、それとも何が何でも残していかなければならないという方向性でお考えなのかがわからない。つまり、消滅も仕方ないよねと思って総合計画を立てていらっしゃるのか、それともいかなる投資をしてでも市町村はなくすべきではないといえますか、その村は絶対存続させたいという思いがあるのかどうか、こちらからはあまり分かりませんでした。もちろん具体的に書きにくいというのもありますし、県庁は公的機関ですから、どこどこは要らない、と書けるのかということ書けないとは思いますが。また、2050年の長期を読んだ後に2025年の中期を読んだら乖離が結構大きいなど。もちろん25年間の差はあると思うんですけど、「人口減少は仕方ない」というふうにお考えではないならば、「人口減少はなんとしても防がなきゃいけません、だから2025年にはこういうとこまで達成いたしましょう」という記載が必要なのではないのでしょうか。また、2025年だったら、出生率等に関しては、今の中学生・高校生への教育がなければ、2025年に出生率を上げることはできないかと思えます。具体的に書く、書かないは別として、何か方向性をお示しただけだと、個人的に思いました。

(近藤部会長)

まさに的確なご指摘でなかろうかなと思います。事務局としてお答えしていただけますでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。まず後段の人口問題のお話ですけれども、市町村が消滅という、これは今年日本創成会議というところで報告された、2040年には全国の半数ほどの自治体で若い女性の数が半分になると。それは結局将来的に消滅する可能性があるという発表があったところでございます。それを踏まえてのご意見と思っております。

すべての市町村をどうしていくのかという話でございますけれども、当然県としては、市町村消滅というのは何としても防ぐといえますか、そういう考えを持っております。人口問題につきましては日本創成会議の発表以降、国の方でも地方創生ということで、今大きな流れになっているというところがございます。冒頭でも申し上げましたが、選挙の関係で国が止まっているようなところで、出てくるのが遅れておるんですけども、国も年内、あるいは年明け早々には今後の総合戦略というものも示すことになっております。それを踏まえて県も市町村もそれぞれに総合戦略を策定するということになっておまして、その中で、特に委員のご指摘がありましたような点については盛り込んでいくようになるのかなと思っております。確かにご指摘の通り、今の中期・長期にそのあたりが打ち

出せてないところはあるのかなと反省はしております。先に申しました県の総合戦略を策定する、これが並行作業になっていくかと思いますので、当然リンクすべきところはしっかりと結びつけて、十分表現出来るようには考えて参りたいと思っております。

(教育委員会)

英語教育の関係でご質問頂いております。英語教育といいますか、グローバル人材の育成なんですけれども、当然のことながら、国際的視野を持ちながら、なおかつ我が国あるいは郷土に対しての理解があり、誇りを持った人材を育成するという事で、そういった人材を育成することが大事だと思っております。その国際的理解を持つ人材を育てる1つの手段として英語教育をやっていくということで、英語教育を進めることは非常に大事だと思っております。国の方でも、いま小学校5、6年生に外国語活動ということでやっておりますけれども、それをさらに前倒しをして3、4年生でやるという動きもございますので、そうやって英語教育に力を入れると同時に、日本或いは郷土に対しての理解を深めるという教育を進めて行きたいと考えています。

教育委員会の立場ですから、これはもちろん公立学校に対してということにはなりませんけれども。

(村崎委員)

「すべての」という記載の場合はですね、やはり私学としては「私学はすべてに含まれないのか」という気持ちはやっぱり出てきますし、そういう場合でしたら「公立」という表記にすべきであるかなと。すごい小さな話ですけども、我々にとっては大きな話ですので、「すべての小中学校」とか「すべての幼稚園、保育所」といった場合はですね、もし私学を入れないという場合であれば、「私学を除く」とか「公立の」という文言を入れていただければ。我々としましても、「じゃあ本学に所属している児童・園児は県民ではないのか」という気持ちはやはり出てきてしまいますので、そういうことも含めて、文理の児童も、もちろん生光さんの児童も、ほとんど徳島県民だと思いますので、一県民だというご理解をいただけたらと思います。この会議とは直接関係ないんですけども、希望として言わせていただきました。

(事務局)

表現に配慮が足らず申し訳ございません。当然子どもたちを学校の母体で色分けするようなことは考えておりませんので、今後関係部局とも調整いたしまして、表現を改めて確認させていただきます。申し訳ございません。

(近藤部会長)

他にございませんでしょうか。特に、最近どの会議に出ましてもこの人口減少の問題というのは非常に深刻な問題として捉えられております。徳島県も当然40、50年先にはかなり減少する可能性がありますし、消滅する町村が出てくるということも考えられます。日本全体でも1億を切ることを認めるのか、いや1億を維持するんだというので政策は全然変わってくると思っておりますので、そこらへんも含めて何かご意見ございましたらお聞かせ

いただけたらと思いますが、どうですか。

(岩野委員)

経済研究所の岩野ですが、大きく分けて2つあります。まず私は今回、長期計画を検討するという作業を初めて行いますが、日本語と言いましょか文章ばかりの資料が来ました。あまり色を使ったポンチ絵は好きではありませんが、全体のイメージというのは、もう少し図形や数字の根拠など、色々なもので教えていただきたい。例えば学生に対する講話で、パワーポイントでまとめておいて欲しかったと言われると、私はいつも怒るのですが。久しぶりに日本語オンリーの書類を見て、私もそういうことを要求するようになったのかと反省するのですが。それにしても、ぎりぎりで送っていただいて、文章ばかりで何の根拠も無く、全体のイメージ図も無いので掴みにくいと思います。前回と今回は、何処がどの様に抜本的に作り直したのかということが分かり難かったので、もう少し分かるようにしていただけると、私のように力のない委員も助かります。というのが全体的な依頼です。

もうひとつは、資料2の9ページなのですが。例の高校生・大学生のアンケート調査で、何回もしつこく言うのですが、これは人口減少や、先ほども会長がおっしゃられたところとも被ってくると思うのですが。やはり気になるのは、このアンケート調査をする上で一番大事なことは、徳島県の高校生や大学生の方がいらっしゃる立ち位置なのだと思います。まずこの定住志向や、仕事について地元志向の高さと書いてあるのですが、高いと判断するのは何時と比べてですか、どの地域やどの人、何と比べて高いと判断するのですか、50%を超えれば高いのですか。それは過半数と書くのは良いと思うのですが、高い低いは比較するものがあるって初めて判断できるものだと思います。地元志向が高いということは地元を好きで…という、何か目に見えない力が働いて、そういった方向に論調が持って行かれてしまうのですが。例えば80%や90%の地域と比べたら高いとは言えないのだと思います。低いと判断しないとイケない。アンケートというのは調理の仕方であり、判断をする、ジャッジをするのは比較の材料があって初めて出来るのだと思いました。

最近、山口県で同じような調査研究をしていました。山口県も徳島県と同じように製造業の県ですが、人口の高齢化、減少が進んでいて、何故だというのを分析しています。そうすると製造業の県なので、ブルーカラーつまり生産の現場で働く方は、高校を出られたり、専門学校を出られたり、大学も工学部の院を出られて、就職口があるのですよと。なぜなら製造業が多いのですから。ただし、文系やホワイトカラーといった事務系の方が就職するところがないと。いわゆる営業拠点であるとかシンクタンク・研究施設です。ですから、今でも製造業の就職はかなり飽和していますが、例えば従来どおりの企業・工場誘致活動を行っても、ホワイトカラーの仕事はいつまで経っても生まれません。だからそれを生まないことには、山口県の施策を転換しないことには、ある一定の、例えば経済学部や法学部に行っている方の就職先は、いわゆるサービス業ですので、どんどん東京や大阪に流出して、それが止まらないから、いつまでも構造的な少子高齢化は止まらない。と、かなり分析してしまして、なるほどと思いました。

私は徳島もイメージとしてはそれに近いなと思いました。農業なども製造業の一種と考えたら、いわゆる製造業以外の方が就職するところが少ないと思います。と、アンケート

はこの様に使うべきものではないかと思うので、しつこいのですが、足下の調査や側面調査はきちんと使われて、間違わないように判断をし、方向性を示していただきたいと思いました。以上です。

(近藤部会長)

ありがとうございました。今の岩野委員の意見につきまして県側は何かございませんか。

(事務局)

岩野委員には前回もアンケートについてのご意見いただきましたが、十分対応できてないところもあるかと思しますので、引き続き課題とさせていただきます。確かに定住志向の書きぶり等は改めて見ますと、偏った、主観的な判断になっている部分もあるかと思しますので、改めて再考したいと思っております。

前段でおっしゃられました、イメージがつかみにくい、確かに字面の資料ばかりになっているところは反省すべきと思っておりますが、特に中期プランになりますとほとんど施策の総集編のようなかたちになる関係上、これを図表化するというのは難しいところもあって、今回そういうかたちでお示しできなかったところもございます。今後の課題といたしまして、最終的にお示しする段階では、今回の総合計画のコンセプトといたしますか、もう少し整理したかたちでお示しする必要があると考えておりますので、引き続きお願いできたらと思います。

(近藤部会長)

他にございませんでしょうか。

(永本委員)

私からも何点か感想を述べさせていただきます。先ほどの岩野委員のご発言とも関連するんですけども。これ拝見させていただいて、もちろん長期ビジョンに書いてある目標とか、そういったものについては私も賛成するところばかりなんですけど、やっぱり中期プランをどうするかというところでは、かなり作られたご担当の方も悩まれたと思うんですね。結局、先程から近藤部会長もおっしゃられている人口減少の問題と、県にどれだけお金が集まるか、平たく言うんですけど、という問題は表裏一体なので、「お金と人を将来的にどうやって集めるか」というところに集約して考えますと、もっと思い切った発想をしてもいいんじゃないかなという印象でした。

例えば中期プランの目標として、「世界に開かれた徳島」ということで、先ほどから言われている英語教育とか、そういう視点も出されているんですけど。他方で、「徳島は四国と近畿の結節点だから」とか、これは関西広域連合を意識されてのことだと思うんですけど、そういうことも出てくるんです。けれど、そこはあまり私としてはこだわらなくていいんじゃないかなと思うんです。私は近畿出身の人間なので、徳島に来て思うのが、兵庫県とか近畿と四国四県の中では徳島が一番近いところにはあるんですけど、やっぱり橋に鉄道が通ってないのが弱いところとして、台風が来ると「本当に島なんだな」というのを実感するんですね。

あとはマチ★アソビなんか、皆さんよくご存じだと思うんですけども、何か面白いことがあるれば、別に近畿を通る・通らないに関係なく、人は来てくれると思うんです。だから、例えば先ほど岩野委員が「徳島では文系の方の就職口がない」ということをおっしゃっておられたんですけど、確かに大きい企業は限られておりますよね。例えば大塚ですとか日亜であるとか。あと文系の方の主な就職先としては、代表的なのはここ県庁とか、銀行であるとか、そうやって限られてくると思うんです。やっぱり徳島大学が理系が中心の大学なので、文系の方の就職口というのは相対的に低くなるかなと思うんです。ただ、一方で徳島県に特徴的なのが、病院の数がすごく多いと。人口対病院の数だと、確か全国1位ですかね。東京は医師の数は多いんですけど大きい病院が多いので、徳島は個人病院の数が多というの1つ特徴的だと思うんです。徳島大学も医学部が基幹なので、先ほどのアンケート調査見ましても、医療・福祉関係に就きたいという高校生・大学生も多いみたいなんですけど。今後高齢化社会がどんどん進行していくので、介護とか病院関係はニーズも増えて、必要になってきますから、そのあたりをどうするかなんですけれども。東南アジアの方からどんどん介護職に就くような方をもっと来ていただくような、そういう話があると思うんですけど、一方で県民として介護のニーズがある中で、病院とかそういう施設もどんどん増えていくと思うんですが、日本に限らず海外の学生や介護職の人などを受け入れて、海外から若者に来てもらって徳島に定住できやすいようにするとか。そういうふうに、海外からであっても、どういうふうにしたら人に来てもらいやすいのかなというところに着目してもらったらいいかかなと。

あとマチ★アソビというのの関連からすると、「アニメの街」というようなイメージも一部で浸透しつつあるので、たとえば直接的に徳島にお金を落としてもらおうでしたら、イベントで遊びに来てもらうのもいいんですけど、ふるさと納税とかで、アニメ関係のちょっと手に入りにくいようなものをですね、ふるさと納税を納めてくれた人に渡すようなことができるのであれば、そういう面白いものを、「徳島にふるさと納税したらこういうものがあるのだ」というのを出せたら、もうちょっと直接的にお金を落としてくれる人も増えるのかなと。例えばですけど。

そういったふうに、今ある産業を活かしつつ、視点としてはもう少し思い切ったものを出されて、近畿圏とか近い所から人を集めようとか、お金を集めようとか、そういったところにこだわらず、本当にグローバルに考えていいと思うんです。

そのためには別に英語にこだわらなくてもいいと思うんですよね。徳島にいながら日本語を使うだけでも、モノが、アイデアが面白ければ人とかお金は集まると思うので。そういう視点からすると、もうちょっと具体的計画をシンプルにできるんじゃないかなと思って。それが全体的な印象です。すみません、ちょっとまとまりがありませんけれども。

(近藤部会長)

ありがとうございます。これは特別、県側から何かお答えは。要りませんね。それでは順番で行きますと飛田委員、いかがでございましょうか。

(飛田委員)

飛田です。人口減少の問題が大きいということなんですけれども、人口減少はかなり深

刻だとは私も痛感しています。実際に人口減少によって地域地域のお祭りであったり、歴史の継承がされないまま町の機能が失われていって、どんどん限界集落と言われる地域が増えていっている、そういう中で、郷土愛をどうやって持つことができるのか。2050年の姿としてある、「世界に発信していく、世界とつながる徳島」になるためには、徳島という大きいかたまりである前に、もう少し地域地域の特性であったり、自分が生まれ育った場所に対する愛着というものが基本になってくるんじゃないかなというふうに思います。そういった郷土愛を育むためにも、町の機能というのを継続させていかないとけない。

そうすると、独自の価値観での教育というのが必要になってくるのかなというふうに思います。実際、少子化対策で結婚・出産・子育てというような一連の流れで考えられているんだとは思いますが、世界で見たときに、フランスのように婚外子も認めるのかどうかというようなことだったりとか、もうちょっと今の徳島の価値観とは別のところに基点を置いて、人口減少であったりとか将来のグローバル化ということをもう少し広義に議論する必要があるんじゃないかなというふうに思います。

今そちらの席を見てもお座りになっているのは男性の方がほとんどですので、本当にグローバル化ということを実際に考えるのであればもっと女性の率が高い方がいいだろうというの我也思います。

2050年まであと35年ぐらいありますけど、35年ってきつとあつという間なんだろうなと。古い価値観でももちろんいいところはあるかと思うんですが、やはりもうちょっと先を見据えた新しい価値観の構築というのを踏まえた上での長期ビジョンであったり中期プランというのを考え直す必要があるんじゃないかなと。たぶんこのまとめられていることというのは非常に素晴らしくて、本当にこれが実現出来ればいい県になるんだろうなと思うんですけども、それをやっていく中でどこかでつまづくような気がして。これまでと同じような対策・対応では、きつと乗り越えていけない部分が出るんじゃないかなというふうに思いました。以上です。

(近藤部会長)

少子化問題も2050年、約35、6年後を考えてみますと、今産まれた方が35歳になるわけです。今現在の若年層に対して取るべき対策と、35年後にここにいる、結果として出てくるものに対して、今から取るべきことと、やはり分けて考えていく必要があるのだろうなと思っております。今少子化対策委員会執行部なんかでもやっておりますが、どうやって婚活で結婚を増やすかとか、そういった対処療法的な話は非常に出るんですが、結果的にやはり、若者になかなか結婚できるだけの収入がない。そうするとどうしても結婚したいと思いつながら結婚ができない。という現状から、私は目をそらすべきでないと思っています。よく、結婚するには300万円の年収が必要だと言われますけど、これだけ安倍総理は100万人の雇用を増やしたと言ってますけど、実際は非正規が100万人増えた。年間165、6万の収入の方が100万人増えても、少子化対策にはほとんどつながらないというのが現実じゃないか。

片一方では少子化問題を議論してどうにかしなければならないという真剣な議論をしながら、人も集め、何度も何度も会議をしながら、片一方では派遣法を緩めていくという、

非正規社員をどんどん増やしていこうという、この全く相反するやり方でやってる限り、私なんかは、「この対策って真剣に考えているのかな」としか思えないし、当然いま現在そのことを議論すると同時に、今も言うように、35年先、今産まれた子どもたちがもう十分子どもを産んでる歳ですよ。そこへ目を向けてどうしていくかと考えていくと、徳島の経済もどうしていかなければいけないか、地場産業をどうしていくか、雇用の場をどうやって増やすか、そういったことをもっと真剣に考えていかないと、何か数字だけを羅列したり、希望数値だけを挙げたり、じゃあ実際に実現出来るのかということ私は非常に難しいように思います。

他にご意見はございませんか。

(唐渡委員)

まず災害に対する意識ということで、先日、一週間前もですね、三好の方ですごい大雪が降りまして、この間まで停電が起こっていたというのを聞いたときに、電化をすることによって一週間程度の停電で何もできない家も増えていくのかなと。電化は1つの手なのかも知れませんが、別のライフライン、水道、ガス、電気とあるんですけども、そういったところもいろいろ考えながら将来の徳島を作っていかなければならないのかなというのを、この間のニュースでも思いました。もう1つ県民の方から、ニュースで聞いたんですけども、地震保険に入る率が徳島県は非常に高いというのを聞きまして、やっぱり一人ひとりの意識も向上しているのかなとということもありました。近々東南海の地震が来る可能性もゼロではないということで、やはり強い県土をどんどん作っていただきたいなと。人命がまず第一だと思うんですけども、まず1つめに人命を考えていただいて、次に住むところ、そういうことになると思います。だんだん時間が経ったり、日が経ったりするにつれて、やはり第一次産業というのも痛手を受けると思うんですけども、そういうふうな点も考えながら中・長期の、まあ長期ですね、考えておかないといけないのかなと思いました。

もう1つですね、農業の方から言いますと、「もうかる農業」とありますけれども、なかなか現実儲かってないところもあるのではないかなと。大きな組織に属してたりするとそれなりにお金も動いていくとは思うんですけども、徳島県は非常に農業、漁業、林業もある、第一次産業という部分、非常に多いと思います。その全部が全部儲かるというのは非常に難しいと思うんです。やっぱり個人という人もたくさんいると思いますので。組織に属さないというところですかね。やはりまとめていくべきなのかなとも思うんですけども、県民性というところか、何て言ったらいいのか、なかなかまとまりにくいと。そこまで把握してくれというのも非常に言いにくいと。長期のところでは言いますとやっぱり若い人の農家に対する、就農率というんですかね、それをカバーできるような内容ですよ。中にも書いてるんですけども、Uターンというかたちでどんどん土壌を固めていってくれたらいいのかなと思いました。以上です。

(近藤部会長)

ありがとうございます。はい、どうぞ。

(村崎委員)

多分、私も含めて今まで発言された委員の皆さんの共通認識は、結局今回の総合計画自身にあんまり筋がないように思えるんです。この中・長期、両方とも。例えば「子ども増やしましょう」を筋に10年間やるのではなく、この中期プランってみんなにいい顔をしたプランだと思うんです。農家の人もそうだし、防災の観点もそうだし、「いろんな人にいい顔をしたら、これだけ10年後に全部しないといけないんですよ」という話になったと思うんです。それで委員の皆さんからのご発言を、と言われてもなかなか難しいかなど。ざっと読みましたけど、私の場合は教育に関心がありますので、若者クリエイティブ部の意見を読んで、例えば「環境防災科を設置します」とか書いてあって、「本当に10年以内にする気があるのかな」と思ったりもします。「4車線にします」と言われたら「土地をどうやって確保するのか」と思ったり。いろんな夢ばかり書いたもので、10年後にこれだけ全部しますといわれたら、多分この中にいらっしゃる方で全部実現出来ると思っただけの方、ほとんどいらっしゃらないと思うんです。

別に子どもの数が大事かどうかは人それぞれだとは思いますが、例えば、ひと家族、結婚・出産含めて、「こういうモデル像を作ります」というところから総合計画を作っていく方が我々も想像しやすいかと思いました。たぶん教育、町の発展、環境への配慮、防災への配慮など、いいものをいっぱい考え、作りすぎた結果がこの総合計画案なのかなという感じがしました。その結果我々も発言を若干しづらいものを渡され、いま発言に苦慮しているのかと。もちろん様々な意見を聞くというのは大事なことだと思うんです。ただ、ご発言くださいと言われ、私も含めて委員の皆さんのお話を聞いていたら、なんか言いにくそうといえますか、自分はこちらだけ、私はこちらだけという話しかできていない。何か1つ、一本筋の通ったプラン・総合計画の方が良いかと思います。もちろんすごく反対も出てくるでしょうし、いろんなところの関係各所から「私の方の…」という話は出てくると思うんですけれども、例えば「2025年に徳島県の人口何人をキープします、そのために…」というところからスタートした総合計画の方が個人的には良いかと思います。いまこれ全部、みんなにいい顔したような話なので、我々もそれぞれの立場があるので、その話を中心にしてしまいがちになり議論になっていないのかなと思います。

(岩野委員)

私もその続きで。それを一言で表すと「総花的」と言うのでしょうか、確かに、本当に優先順位をつける。高知県のように3本、「産業振興」と、移住などいわゆる「人口問題」と、「防災」。その3つだとした、分かりやすい県もありますが、私もしつこく言うのですが、徳島県以外の46都道府県の長期計画を分析されて、どのような結果が出ましたか。それをちょっと教えていただきたいです。「こういう総花的な計画がやっぱり圧倒的に多かったです」「何々県がすごく分かり易くてよかったです」など、分析をお願いしますと、私はしつこく言っております。まずその結果を踏まえて、「なるほど、じゃあ徳島もこれで仕方ないな」「この県に近いのはどうですか」など議論したいので、もっと情報といただけますか、ネタを提供していただきたい。そうしないと、いくら徳島のことを話しても、徳島のものでしか調理しないと、やはり調理の幅は多分広がらないのだと思います。

(近藤部会長)

どうですか。

(事務局)

他県の分析ということですが、分析と言えるかどうかわかりませんが、一応各県のもの
は当然取りそろえて、じっくり熟読は正直できておりませんが、一通り項目立てと
かは整理しております。どこがどうというのはあれですけども、やはり総合計画という
性質上、総花的というのはほぼ全体的な印象ではあります。ただ、特定の、高知県のどの
点をおっしゃっているのかというのは手元に資料がございませんのでわかりませんが、例
えば数値目標に特に重点的にターゲットを絞ってということはあるかと思えます。当然
盛り込むものは県の総合計画である以上総花的にならざるを得ないのかなと思ってお
りまし、他県を見た結果でも、それほど特筆すべきものはなかったような、というのは感想
として受け止めております。

(岩野委員)

それは、特筆すべき点がないかどうかということ、例えば私たち委員に判断させて欲
しいので、そういった資料としてご提供いただけるとありがたいと思います。

(事務局)

一覧表はございます。一覧表というのは本県ですといまお見せしているような柱立ての
項目名のようなものを各県ごとに並べたようなものはございますので、そういったもので
したら例えば次回お示しするといったことは可能かと思えます。それ以上になると結局中
身になりますので、一冊それぞれの県の46冊をお渡しせざるを得ないということになり
ますので。項目の整理ということでしたら今整理しているものはありますので、再点検し
て出すことは可能かなと思っております。

(岩野委員)

要は分析した結果として、例えば大体3つぐらいのパターンに分かれて、何々県型であ
るとか、そういった分析を。遠回りのような無駄なような気もしますが、アンケートと同
じで、実は結構有効な解決手段になったりすると思うのですが。することが目的となって、
集めてきて書くことが目的ではない。あくまで分析し良い結果を導くための手段なのであ
って、それが目的ではないので。1つ1つの県の特徴を一言でまとめていくという作業は、
決して無駄ではないと思うので、是非ご検討ください。

(事務局)

どこまでできるか分かりませんが、検討はさせていただきます。

(岩野委員)

やっぱり学ぶことは真似ることだと思いますし、何も無いところで発明しようとするか
ら行き詰まったり、変な方向に行くのだと思います。何処のものをそのまま真似しなさい

というのは、オンリーワン徳島だからいけないのかもしれないんですけど。それにしても、ではこの会議で全く違うものを作ると言いながらも「なんとか創造」や「なんとかの徳島」というのは、前の長期計画などと同じようなキャッチフレーズといますか。分かり難いぼやっとしたものにしているという意味では、全く前の路線と違わない、凝り固まったものだと思うのです。なので、もう少し柔軟にするという意味でも、全国の事例をよく分析してみるという作業は決して無駄ではないと、しつこく申し上げるしかないのですが。それを「やりません」と言われたら「ああそうですか」としか言えないんですけど。意見は留め置くというようなことでしたら、それでしょうがないかなと思います。

(近藤部会長)

どうですか、留め置くという程度で行くのか、それとも今後もう少し踏み込んで、その辺りをこの「宝の島・とくしま創造部会」の中で検討していけるようにしていくのか、どうでしょう、方向としては。

(事務局)

そもそも本県の、今日お示ししている長期・中期、いわゆる短期と言いますか4年間、こういう構造にしている県は非常に少ないということがございます。2050年を展望しているというのは、見た限りほとんどなかったと思いますし、多くが長期と言っても10年くらい、うちで言う中期が長期になっているとかですね、そういったことはございます。計画表はだいたい4年というところが多いんですけども、そういったこともありますので、他県の分析をそのままどう反映できるかというのは、そもそも成り立ちが違うところもありますので、どう分析しどうお示しするかというのはあるんですけども、すみません、繰り返しになりますが、その辺も含めて検討したいと思います。

(近藤部会長)

岩野委員も別段よその県を参考にして徳島県を出せというのではなくても、徳島県オリジナルのしっかりしたものをやはり提出してほしいと。そして検討の俎上に上げてほしいと。

(岩野委員)

本当に今の検討の方法で合っているのでしたらそれでいいのですけれども、そこはやはり、何回も言いますが、色々なものと比較・検討することで初めて判断できるのであって、これしか知らないところでこれしかないところで、「これ」と言われれば、良いか悪いか判断しようがない。せめて前よりバージョンアップしているのかどうか。判断というのは、色々と比較・対照するものがあって初めて出来るというものなので。私がそれでしか判断できないというのはいけないのかもしれませんが、それが客観的と言いましょか、そういったイメージかなと思います。

(近藤部会長)

わかりました。若干そのあたり、ご意見に沿えるように、できるだけ努力をしていただ

くということによろしゅうございますでしょうか。

(岩野委員)

お願いします。

(近藤部会長)

では、次に、どうでしょうか。

(内藤委員)

内藤です。村崎委員に言いたかったことのほとんどを言われてしまったんですけど、私もこれを読んでいて、すごくいいことを書いてあるなとは思いましたが、何を本気でやりたいのかなというのはすごく思いました。ちょっと違う会議なんですけど、財政の会議なんかでも人口減少について先月ぐらいに話し合ったんですけど、「どれぐらいの人口を目標としていますか」と聞いたときに、その回答ってないんですね。「何年頃に何人ぐらい」という目標は特になくて、でも人口は減らしたくない。でもそれだと多分、積み上げ方式というか、岩野委員もおっしゃってた数字の根拠とかっていう部分だと思うんですけど。放っておいたら減っていくのは目に見えているので、「それを何年後に何人ぐらいで押しとどめるのか」という目標もなくやっても、今の状況ではどんどん社会減、自然減が起こっていただけなんじゃないかなと思っています。

これを読んでいて、先ほど村崎委員のグローバル教育とかの英語の部分にも関係するんですけども、本気で英語のグローバル教育をやるんですか。本気でやったらみんな世界に出て行っちゃいますよね、と私は思ったんですね。なんでかという、私は海外で働きたかったので、高校時代に留学しました。国連の職員とか国際弁護士になりたくて東大に行きました。それでハーバードに行こうと思いました。そうなったときに、やっぱり徳島に帰るなんてことは微塵も思わないわけです。そういう人たちを育成したいんですか。それをもし本気でやりたいのであれば、徳島から子どもたちはいなくなるんですけどそれでいいんですかというのを私はちょっと聞きたくて。

どれに対して取り組むのかという優先順位が見えてこないというか、これに本当に、全部本気で取り組むのであれば、「じゃあ徳島県の子どもたちみんなに本当にグローバル教育が必要ですか」というところになると、私は思いました。

村崎委員がおっしゃるように、それこそブルーカラーで、うち中小企業で製造業やりますけど、そういう子たちに英語が本当に必要かとなると、どちらかという専門の技術だったりとか、技術者に必要な技術が必要なんじゃないかというふうに私自身は思っています。それを全員にやれというのではなくて、そこに住んでる人とか、そこにこれから生活していく人の中で、どういうスキルが必要なのかというのを考えないと、全て広く一般的に、全ての公立に、全員にそういうものをする必要があるのかというのはすごく思いました。

感想になっちゃいますけど。以上です。

(近藤部会長)

ありがとうございました。それでは分木委員、何かあれば。

(分木委員)

感想になるかと思うんですけども、資料を見させていただきまして、具体的にどういう施策にしていくのかというのが十分理解できない部分があるんですけども、よく考えられた案なのかなというふうに思っております。目指すべき姿、これに到達するんだという強い意志を持って取り組んでいただければ非常にありがたいと思っております。この案につきましては、中期プランの柱のVの、私に関係するところなんですけど、「世界にはばたくとくしま」、これは非常にじっくりしてきたなど。前は「世界標準」ということでしたけれども、何かこうじっくり来ない言葉かなと思っていたのが、ちょっとじっくりしてきたなという感じがしています。

それともう1点、これ最終的には公表するんだと思うんですけども、公表するときには県民の方の理解できるような、専門的な言葉についての意味等ですね、記していただければ非常にありがたいかなというふうに思っております。これがこの素案につきましてはの感想です。

ついでと言ってはなんですけど、私に関係するスポーツについてちょっとお話しておきたいと思えます。今後この行動計画案というのを作られていくと思うんですけども、ちょっとでも参考にさせていただければありがたいかなというふうに思っております。この中期プランの中にもございますけれども、ジュニアからの一貫指導ということがございます。「世界へはばたくトップアスリートが育つ徳島」と、それにしたいというふうに私は思っております。そのためには今後さらに、次世代のアスリート、これを計画的、継続的に発掘・育成・強化を行う一貫指導体制、こういうものを確立する必要があると思っております。できるだけ早い時期に適性を見つけて、将来を見据えた育成に努めること。これが重要ではないかというふうに思っております。優秀な選手の卵を発掘して一貫指導を行う。こういうことが大切であって、そのためには優秀な指導者、これも育成していかなければいけないというふうに思っております。指導者資格の取得でありますとか、資質向上、これにさらなる支援をしていく必要があるのではないかとこのように思っております。その中にごございます鳴門渦潮高校の設備、それから人材、これをもっと充実して、それを活用して、全県から優秀な選手の卵を発掘・育成できるようにしていければと考えております。

それから一般の方々がスポーツを楽しむということについてですが、今現在総合型スポーツクラブが創設されておりますけれども、なかなか伸び悩んでいる現状があります。一応普及はしてきているんですけども、私どもの立場から言いますと、ふらっと立ち寄れてですね、そこに行けば誰かがいて、好きなスポーツ活動ができる、そういう場所があればいいかなと思っております。また、参加しやすいスポーツ活動の提供、それからスポーツイベントの魅力充実、こういうものが期待されているだろうと思っております。何といたっても活動の場でありますスポーツ施設の整備、拡充。欲を言えば競技場にスポーツホテルであるとかショッピングモールとか、そういうものも含めた複合施設、この整備ができたら非常にありがたいかなと。そういうところに人々が集まってくるとこのことで、こういうものができていけばありがたいかなと思っております。

スポーツに関することなんですけれども、参考にさせていただければありがたいなと思

ます。以上です。

(近藤部会長)

それでは今度は伊藤委員をお願いします。

(伊藤委員)

私の方からも要望といったことで、お答えは結構です。先程からも話がありましたけれど、長期ビジョンはどうしてもイメージ中心になると思います。それから中期ビジョンはそれを少し狭めてきたものと。一番大事なといひましょか、注目される数値目標という話は4年間の行動計画だと思います。今回この提示がないのでしっかり議論というのができないかなと思うんですけど、この行動計画をしっかりと作っていただきたい。前回のものもかなり微に入り細を穿っていたと思います。

それをしっかりと作っていただきたいという中で、2点ほど。農林水産業関係で、これは要望でございます。こちらの、いただいている資料にもございますが、まず32ページにも記載がございます。5月の定例でもあったかと思うんですが、徳島大学に、この「もうかる農林水産業」の4つめに、生物資源産業学部という新たな学部が創設されると、再編されるといったことでございます。再編は平成28年だったと思いますので、ちょうど行動計画の真ん中にこれが入ってきます。したがって、これはさらっと書かれてますけど、「地域が活性化されています」、10年後はもちろんそうでしょう。33ページの4つめに、「農林水産業者と大学や民間事業者とのマッチングを進め、6次産業化をはじめとするベンチャー企業の創出・取組を支援します」とあります。もちろん5月の知事の定例でも、農業大学校、それから農林水産総合技術支援センターとしっかり連携してやっていくんだというような知事の発言がございました。ちょっとこの行動計画のところはこれをもっとしっかり、踏み込んでいただきたい。特に次の34ページの「さらに羽ばたく時代を先取る新たな産業」で、4つめに「アグリベンチャーの創出、新たな商品の開発」というようなことも出てきて、「6次産業化」というのが文に出てきていますけど、ここが非常に重要で、これをさらにつっこんで、行動計画のところではしっかり踏み込んでいただきたい。

それと、人材の育成というところ、先ほど岩野委員のご発言もございましたが、せっかく優秀な人材が県内に残っていただけるような場所、研究所あるいは企業というところで、リーダーとして徳島県に定着していただけるような施策というのも、行動計画の中には入れていただきたいと思います。

もう1点、林業、木材産業の関係なんですけど、平成28年4月に、阿南市の辰巳に、クラボウさんの木質バイオマス発電所が稼働するというような計画が、これも7月の末に発表されました。これは徳島県にとっては非常に大きな動きです。これも39ページに記載がございます。目指すべき10年程度先の「生産倍増・消費拡大『次世代林業』」の4つめに、「県産材製品の利用が進み、製材端材や林地残材もバイオマスエネルギー燃料として無駄なく利用されています」とありますが、これはもう間違いなく利用されてるんです。でもそれを供給する施策というのが、下の方の、施策の方向性にはまったく記載がございません。ここはしっかり、供給するための施策を。と申しますのが、四国四県、全国的に

もそうなのですが、FITによる発電事業もものすごく入ってきてます。四国でも高知で2つ、愛媛でも1つ、もう計画が実現して木材を集めているといったような状況で、供給不足、需要が旺盛で供給不足というところが出てきています。したがって、ここは「供給する施策」というところで1つ、行動計画の方ではしっかりと記載をしていただきたい、目標を持っていただきたいと思っております。私の方からは以上2点、要望でございますのでお答えは結構です。

(近藤部会長)

お答えは結構ということですが、よろしゅうございますか。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございました。主に農林水産部を中心とした施策と思っておりますので、十分相談をいたしまして、行動計画あるいは中期プランにもう少し掘り下げることがあれば掘り下げたいと思っております。また引き続きお願いいたします。

(近藤部会長)

それでは、村上委員をお願いします。

(村上委員)

私事になりますが、昔東京でコンサルタントに勤めていた経験がありまして、膨大なデータを計算して結果報告をする際に、必ずA3で1枚にまとめるように、というのが至上命令でした。2枚では見てもらえません。最終的な結果というのは簡単なものでなければならない、と教えられました。その経験から考えますと、この資料につきましては、長期ビジョン編、中期プラン編と分けられて、中期プラン編は2025年の姿はこうだと。それに対して具体的な施策の方向性はこうだというふうに、エクスだけをまとめられているということにつきましては、非常に良い感じでまとめられているかなというのが私の正直な印象です。複雑化する行政の施策を、1冊にまとめるというのは大変なことだということとは想像できますので、非常にご苦労されているなど感じています。

次に、人口減少と都市施策について、不動産鑑定という切り口から意見を述べさせていただきます。不動産というのは土地と建物を総称したものです。土地について言いますと、土地はそれぞれの需要者によってさらに細かく分類されます。大きくは店舗とか事務所にするという需要者から見た土地の種別、これを商業地。それと住むという需要者に対する土地、これは住宅地。という2つに主にわかれます。それぞれ需要の大小に応じて地価水準はそれぞれベルの挙動を示していく、というような性格のものです。

徳島県におきましては平成4年頃から、それまで上昇していた地価水準がまず商業地を筆頭に下落に転じました。その5年後の平成10年には、住宅地を含む全ての種別が下落に転じ、以降15年間、不動産市場でもデフレがずっと続いてきました。しかし、最近になって、ようやく2%、1%台とデフレからの脱却が見えてきたかなという状況です。すでに特に人口が増えている北島町や藍住町では逆に地価が上がっています。一方で、いくら地価の下落幅が小さくなったとしても人口が増えないところでは決して地価は上がらない

という説もよく聞かれます。これについて私は少し違う考えを持っております。人口が減る、若しくは伸び悩んでいても、局所的に見れば地価は上がる可能性が十分にあると考えます。地価は、その土地の担保性や収益性、居住性などの総合評価であって、それを価格で示したものですから、地価が高いということは、それだけその土地や周辺エリアの魅力が高いことを示しております。ですからできるだけ資産価値を高めていくことが重要と考えます。現在、人口が横ばい状態の徳島市では渭北地区において地価が上昇に転じております。また、人口規模10万人以下の鳴門市や阿南市でも局所的にはあるものの地価が下げ止まりつつあり、一部では上昇に転じようかというエリアも見られます。ですから決して、人口が増えないから地価が上がらないのではなくて、土地はそれぞれ個々の立地条件が違っているため、その土地の魅力が創出されれば地価は上がるという期待を持って都市施策に臨まなければならないと思います。

地価が上がる大きな要因の一つに、その土地又は近傍に建つ建物が挙げられます。土地上にどのような建物が存在するかによって、その土地自体のみならず周辺の土地も大きく影響を受けるという性格があります。ですからこの資料でお書きになっています「まちづくりの方向性」について、例えば1つ箱物を作るというようなときにはその土地自体の値段、資産価値が上がるだけでなく、土地を含む周辺地域の資産価値にも影響を及ぼすことになることから、いかにして効率的に周辺地域の資産価値を最大化させることができるのかを考える必要があると思います。例えば、商業地として古くから使われている土地について商業需要者だけでなく、新たに住宅地とした場合には住宅地需要者も取り込むことができ、より資産価値が上がる可能性があります。新しく創設される施設が周辺の住宅地需要者にとって、より快適性を助長させるように、全体計画のビジョンを立ててもらえれば、まち全体の魅力度をより大きくすることができると思います。この様にまちづくりの方向性を考える際、地価を施策のパロメータと捉えることで検証ができると思います。但し、都市施策だけでなく時代・情勢によっても地価は影響を受けるので、地価が必ずしも上がらなくてもそれは失敗ではないと思います。少なくともどうしたらもっと上がるのか、もっと周辺のエリアまで上がる可能性があるのではないかと、後に軌道修正ができる合理的ツールとして長期的に地価の挙動をとらえることで、1つの都市施策の効果を大きく引き出していくことができるのではないかと考えます。ご参考までに意見を述べさせていただきました。

(近藤部会長)

ありがとうございます。一通り委員の方々から意見をいただいたんですが、まだもう少し言い足りないという方、ありませんか。どうぞ。

(永本委員)

永本です。ちょっと方向性についての議論が皆様から出たので、私の方からご提案させていただきたいと思います。全体の方向性を県の方で決められるときに、「将来の県民像」というのを大きく分けて2つに分けられてはどうかと思うんです。1グループが徳島で生まれ育って徳島に定住するタイプの県民の方。これはその高校生・大学生のアンケートに出てくるような地元定着志向が強い方と言えると思うんですけど、Uターン組もそれに含

まれていると思います。それともう1グループは、県外あるいは国外から、徳島県に縁もゆかりもないけど新しく来る。仕事とか、結婚相手がこちらに就職したとかいう要因で、県外もしくは国外から来る、新しく県民になる方。こう大きく2つに分けて将来の県民像を描いて細かい施策を決めていかれたら、方向性がつきやすいんじゃないかなと個人的には思います。

いったん徳島県に来てしまうと、「続けて住む、住み心地のいいところにする、安全・安心に暮らしてもらうためにはどうすればいいか」というのは共通すると思います。今ちょっと先程から人口減少の問題が出てくると思うんですけど、「今いる県民の中から結婚して子どもを作ってもらおう」ということだけにすると、人口減少に歯止めがかからないのは目に見えているので、必ずよそから人は呼ばないといけないと思うんです。ただそのためにはどうしたらいいかという方向性が、中・長期プランどちらにも余り見えてない気がしています。もう少し思い切った発想の転換が必要なんじゃないかと思うんです。

私は県外出身者なので、徳島県のいいところ、もしくはちょっと不便なところというのを、ある意味徳島県で生まれ育った方よりよく見えてるところがあるかなと思うんです。私は仕事の関係で徳島に来たんですが、それは全く自分の意思とは関係なく配属が決まったというところがあるので、それまで恥ずかしながら徳島県に来たこともなかったんですね、実家は神戸で近いんですけど、来たこともなかったんです。住んでみたら、特に子どもを持って子育てをする世代の人にはものすごく住みやすいなということがわかって、今となっては例えば「東京懐かしいでしょう、京都懐かしいでしょう、神戸懐かしいでしょう、こっちに帰ってこないの」って言われても、全然そんな気はないですってはっきり言えるんですね。これは他の、転勤して徳島に住んでおられる方どなたに聞いても、「今まで来たことなかったけど、徳島住んでみたらすごいいいところですよ」って皆さんおっしゃるんです。どうしてかという、割と便利なところに衣食住が、特に食住がすごい近接してるんですよ、特に市内は。自転車で行けるとところに学校なり病院なり保育所なり職場なりがあって。東京とかだと満員電車では子どものベビーカーは使えませんから抱っこ紐で抱えて、1時間かけてどこに預けようかというところで、子どももお母さんもぐったりという感じなんですけど、徳島ではそういうことは考えにくいと思うんですよ。小児科を探したりとか、産める病院が全然ないとか、そういうこともないと思いますし、比較的そういう意味では、特に子育て家庭にはすごく住みやすいところなんです。これは皆さんおっしゃいます。食べ物も安くて新鮮なものが手に入るし、本当にそういう意味では住みやすいと思います。

ただ、それは1回住んでみないとわからないことなので、来ていただかないことには仕方ないというのと、いくら徳島が子育てするにはすごく良い場所だって知ってても、何もないところ、働き口もないところにパッと県外、国外から来るわけではないので、やっぱり雇用をどういうふうに創出するか、特に県外、国外の人に開かれた雇用をどういうふうに創出するかというのが大きいところかなと思うんです。どんどん徳島も高齢化が進んでいくんですが、県内の働き手では不足してる職業というもあると思うんです。先ほど私がお話しさせていただいた、医療関係ですね。やはり介護職というのはハードなところもありますし、どんどんニーズも増えてくるので、県内の働き手だけでは足りなくなってくるんじゃないかと思います、近い将来。それから先程から出ておりますけど一次産業につ

いても、やはり足りてないんじゃないかと、現状でも。

私は仕事上、例えば遺産分割の事件ですと、お亡くなりになられた方のお子さん、1人跡継ぎになられる方がいても、「自分は農業はやらない」と。田んぼとか畑、山林とかですね、それは平たく言って誰が取るかの押し付け合いになってですね。みんなお金は欲しいけど土地は要らないとか。そういうことがすごくたくさんあるんですね。例えば田んぼとか畑を貸して、やってもらってる場合もあって、でも大体そういうのの担い手というのは高齢の方なんです。今ある農家の方がどうやって儲かるかというのもとても大事だと思うんですけど、実はそういう田畑をもっと活かせるような枠組み作りができれば、一次産業の担い手というのも増えてくるんじゃないかなというのは感じています。

あと離婚事件とかで、例えばお母さんが1人で子どもを育てなきゃならないというときに、とりあえず働き口を探すんですけど、よくあるのが病院関係の職場。というのは結構ハローワークとかにも求人が多いので。あとは実家が農業をやられてる方というのは、意外と一次産業の内職というのが多いんだなということをここに来て初めて知りまして、にんじんとかわかめの選別ですとか、芋の皮むきとかですね、そういうものも結構あるんだなということを徳島に来て初めて知りました。そういうのも結局、農業をされてるご両親が高齢で、そのお子さんが内職で手伝ってちょっと生活費の足しにはなるんだけど、いずれそういう方がどんどん高齢化してということになってくると、担い手自体がいなくなってくるのかなという感じはするので。

県内の病院関係とか、ニーズが多い介護現場ですとか、一次産業にもっと雇用創出の可能性というのがあるんじゃないかなと思ってます。創出したとして継続させていくためにはやはり行政の目とか手とかも必要なんでしょうけれども、そういうかたちで県外、国外から呼んだら、住みやすいところなので定着はすると思うんですよ。

あとは今いる徳島県民のお子さんたちが徳島で結婚して徳島で子どもを産んで、というのですごく満足して幸せに生活できる、そういう方向性ももちろん大事なんですけど、もうちょっと人を外から呼ぶという方向に視点を向けていただけたらいいかなと思いました。

(岩野委員)

すみません、今までの発言でちょっと自分でも反省しました。私が全国の分析で欲しいことは、例えば長期計画のフォームやスタイルを分析して欲しいというものもあるんですけど。それよりは、内容や成功・失敗の要因分析など、そういったことをして欲しいということを発言に加えてください。フォーム・スタイルだけ見て欲しい訳ではないのです。やはり他県の県庁の方で、全国の施策をよく分析して自分なりのお考えを持って、という方がいらっしゃいました。その中に必ずヒントはあるとおっしゃっていたので。

(近藤部会長)

ありがとうございます。もっともっと皆さん方から意見をいただきたいんですが、時間的な制約がございます。なお、本日の部会の審議の経過及び結果については、徳島県総合計画審議会部会設置規程第3条第2項の定めにより、総合計画審議会の近藤会長に報告させていただきます。

県においては、引き続き、委員の皆様方から頂いた貴重なご意見やご提言を踏まえ、少し方向を改められるところがあれば改めながら、議論しやすいようなかたちに進めていただきたいなと思います。

また、本日の会議の内容について、疑義等がございましたら、後日でも結構でございますので、事務局の総合政策課まで御連絡いただけたらと思います。

本日、委員の皆様には、大変お忙しい中ご出席を賜り、改めて厚くお礼を申し上げながら私の役を終えたいと思います。

2 事務局説明

本日の会議録については、事務局で取りまとめた上で、発言された委員に確認いただいたから、発言者名も入れて公開したい。

(以上)